

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	31	病態治療学Ⅰ
1年	39	基礎看護技術Ⅱ
1年	41	基礎看護技術Ⅲ
1年	42	基礎看護技術Ⅳ
1年	46	基礎看護学実習Ⅰ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFb02			
			●						
科目名	病態治療学 I				単位 認定者	小山 周樹		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数			15 回
授業の概要	病態治療学 I～IVでは、看護の基礎として、疾患の成り立ちと各疾患の病態・診断・治療について学修する。本科目では、疾患の診断に必要な臨床検査方法と造血機能障害、免疫機能障害の病態と診断・治療を学ぶ。また、廃用症候群予防、日常生活動作・活動範囲の拡大に向けた援助方法など、リハビリテーションについても理解を深め、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 基本的な臨床検査値の評価と疾病の診断に必要な検査方法について説明できる。 放射線診断・治療、手術療法、リハビリテーション、理学療法、作業療法の概要を説明できる。 造血機能障害（血液・造血器の疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 免疫機能障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫低下に関連する疾患）の病態と診断・治療の概要について説明できる。 								
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、今後の看護実践に適用できるよう教科書を読んで予習・復習をしてください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	臨床検査①：検体検査①の実際（臨床検査の基礎、血液学検査、化学検査、免疫血清学検査、尿検査）				臨床検査の基礎と検体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）			千葉 美紀子	
2	臨床検査②：検体検査②と生体検査の実際（臨床検査の基礎、微生物学的検査、病理学的検査、生体機能検査）				臨床検査の基礎と生体検査について、教科書の該当するページを予習してください。（60分程度）			千葉 美紀子	
3	放射線医学①：放射線診断（X線撮影、CT、MRI）				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（30分程度）			小山 周樹	
4	放射線医学②：核医学診断・放射線治療				講義資料をLMSで配信するので事前に確認し、理解を深めてください。（30分程度）			小山 周樹	
5	手術療法：手術侵襲と生体反応、創傷の治癒過程等				手術療法について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）			柴田 近	
6	手術療法：麻酔				麻酔について、教科書の該当するページを予習・復習してください。（30分程度）			長屋 慶	
7	血液成分、血液の流動性				第7回講義内容の30分間の予習			渡辺 卓	
8	出血と止血、出血性疾患と造血器腫瘍				第7回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
9	浮腫、発熱と食中毒、外科的感染症				第8回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
10	免疫の仕組みと花粉症、食物アレルギー				第9回講義内容の30分間の予習、および第10回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
11	自己免疫疾患、川崎病と老化				第10回講義内容の30分間の予習、および第11回講義の30分間の復習			渡辺 卓	
12	リハビリテーション総論				リハビリテーションについて調べてまとめておいてください。資料は事前にLMSで配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
13	リハビリテーション：理学療法				理学療法について調べてまとめておいてください。資料は事前に配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
14	リハビリテーション：作業療法				作業療法について調べてまとめておいてください。資料は事前にLMSで配信します。（30分程度）			大橋 孝子	
15	リハビリテーション：言語療法				言語聴覚士の業務内容について、予習すること。（60分程度）			渡邊 弘人	
教科書	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』池上徹他編、医学書院 『系統看護学講座 別巻 臨床検査』奈良信雄他編、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
							授業時間数		60 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。 									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとらして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム(必要時)等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	環境調整：援助の基礎知識				教科書② 第1部1章・2章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
2	環境調整：援助の方法 (ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備)							佐藤 由記子		
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク									
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク									
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク									
8	活動・休息：基本的活動の援助				教科書② 第2部7章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				教科書② 第2部8章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク									
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識				教科書② 第2部9章を読む(1時間)			竹田 理恵		
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)							竹田 理恵		
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助				教科書② 第2部9章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法（入浴 シャワー浴 全身清拭）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモンストラーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭の実施方法」：グループワーク		
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモンストラーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方法」：グループワーク		
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助		佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（おむつによる排泄援助）		竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グループワーク		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子、橋本久子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回） *授業内課題は、レポート、学習カード、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
●										
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	佐々木 重徳		試験(筆記)	50%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1単位	評価の方法	試験(技術)	20%
						授業時間数	30時間		授業内課題	30%
				授業形態	演習	授業回数	15回			
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基本的なフィジカルイグザミネーションを正確・安全・安楽に実施できる基本的技術を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	ヘルスアセスメント				教科書①「第2部」を読む(30分)			佐々木 重徳		
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む(30分)			佐々木 重徳		
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				教科書①「第3部」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む(30分)、動画視聴(10分)					
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む(30分)、動画視聴(10分)					
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む(30分)、動画視聴(10分)					
7	計測の実際：グループワーク				教科書②「身体計測」を読む(30分)					
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				教科書①「第3部」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐藤 清湖		
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”				教科書①「第3部」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐藤 清湖		
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク				教科書②「頭頸部のアセスメント」、「腹部のアセスメント」、「乳房と腋窩のアセスメント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスメント」、「脳・神経系のアセスメント」、「筋・骨格系のアセスメント」、を読む(60分)、動画視聴(10分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				教科書①「第3部」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐々木 重徳		
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				教科書①「第3部」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐々木 重徳		
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				教科書②「呼吸器系のアセスメント」、「循環器系アセスメント」を読む(30分)、動画視聴(10分)			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
14	心理・社会状態のアセスメント				教科書①「第2部」、参考書、「フィジカルアセスメント総論」を読む(30分)			佐藤 清湖		
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				第1回から第14回までの教科書①②、参考書および動画視聴内容を復習する(30分)			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、MCメディカ出版 ②『看護がみえる vol.1.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第3, 4, 5, 6, 7, 10, 13, 15回) *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート、確認テストで評価し、適宜フィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術(採血・検体検査)を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。 									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置(一時的導尿・持続的導尿)」				教科書② 第2部6章を読む(1時間)			竹田 理恵		
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置(浣腸・摘便・ストーマケア)」							竹田 理恵		
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(処置)」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)			竹田 理恵 二口 尚美		
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿(患者の観察)」:グループワーク							佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、巻法、末梢循環促進ケア」				教科書② 第3部11章を読む(30分)			佐藤 清湖		
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				教科書② 第3部10章を読む(30分)			佐藤 清湖		
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵		
								佐藤 由記子 佐々木 重徳		
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」				教科書② 第4部12章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」							佐藤 由記子		
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」:グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)			佐藤 由記子 二口 尚美		
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」:グループワーク							竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」				教科書② 第4部13章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」							佐藤 由記子		
14	与薬の技術 「注射の基礎知識/針刺し防止策」				教科書② 第4部13章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク		
17	与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
19	筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
20	与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳
22	点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	教科書② 第4部13章を読む（30分）	佐々木 重徳
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」	教科書② 第4部14章を読む（30分）	佐々木 重徳
25	静脈血採血の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
26	静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク		
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」	教科書② 第4部14章を読む（1時間）	佐々木 重徳
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（1時間）	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐々木 重徳
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		
教科書	①『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、技術チェック、レポート、学習カード、確認テスト、等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習 I				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。 2. 利用者・患者の思いに関心に向け、対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。 3. 看護実践活動を見学し、看護がどのように実践されているのかがわかる。 4. 看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。 									
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にし、学修意欲つながることを期待する。									
授業計画										
<p>I. 実習期間 1週間</p> <p>II. 実習施設 病院 老人福祉センター</p> <p>III. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を行う。 2. 病院 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者1名を受け持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 2) 看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. 老人福祉センター <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。 2) 活動の場の環境を知ることができる。 4. 実習のまとめ <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。 										
教科書	特に指定しない									
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	担当：木下美佐子、阿部春美、岡崎優子、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、 佐藤由記子、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、泉田さとみ、佐藤清湖、 佐々木重徳、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手4名 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--